

No.21

京浜運河におけるコアマモ群落造成について

中瀬 浩太¹⁾, 桑江 朝比呂²⁾, 渡辺 謙太²⁾, 荒 功一³⁾, 浜谷 信介¹⁾, 田中 裕一¹⁾

Restration of *Zostera Japonica* Co mm Unity in Keihin Canal Zone

Kota Nakase¹⁾, Tomohiro Kuwae²⁾, Kenta Watanabe²⁾, Koichi Ara³⁾, Shinsuke Hamatani¹⁾ and Yuichi Tanaka¹⁾

■ 要旨

海草による炭素貯留の効果が明らかになりつつある。アマモは平均干潮面（L.W.L.）以深に分布するため、透明度の低い大都市沿岸部や運河部では生育が困難である。そこで、干出する潮間帯にも分布可能なコアマモの群落造成を試みた。水質が良好ではない京浜運河でも L.W.L. と平均水面（M.W.L.）の中間付近の、L.W.L.+0.4m でコアマモが生育および生殖が可能になったことが明らかになった。コアマモ生育可否と地盤や底質や堆積状況を比較した結果、船舶航跡波が作用した場合、コアマモ移植場所相当水深でシルズ数 $\psi < 0.3$ がコアマモ生育可能で、波浪と底質の関係がコアマモの分布を左右することが示唆された。

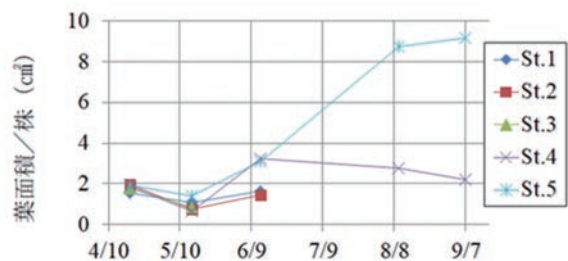


図-11 地点別 1株当たり葉面積

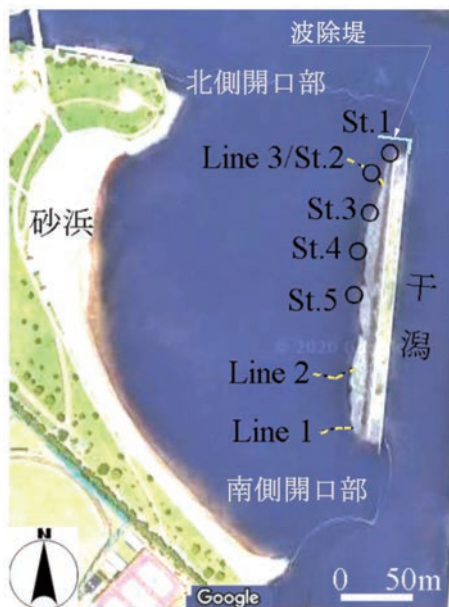


図-4 干潟に設定した調査地点

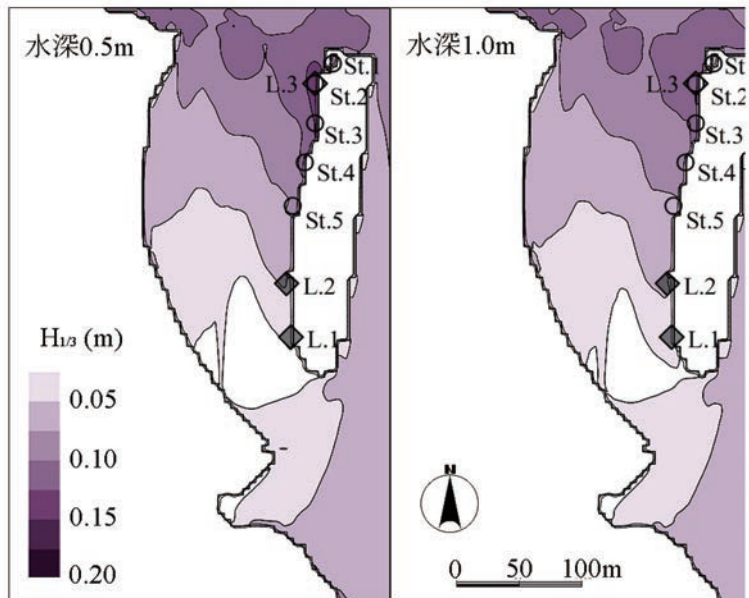


図-14 エネルギー平衡方程式による波高分布

1) 土木部門 環境事業部
 2) (国研) 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所
 3) 日本大学 生物資源科学部 海洋生物資源科学科

* 土木学会論文集 B3(海洋開発), Vol.76, No.2, 2020, 土木学会, pp.I_822-I_827 掲載